

## 2023年度 第3回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2023年10月13日(金)14時00分～17時30分
2. 場所 日本建築学会 304会議室, Zoom のハイブリッド
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季  
田川浩, 中澤祥二, 松井良太, 城戸將江 (記録), 三井和也 (オブザーバー)  
(敬称略, 下線は欠席者)
4. 配付資料
  - 03-00 2023年度第3回鋼構造座屈小委員会議事次第 (金尾)
  - 03-01 2023年度第2回鋼構造座屈小委員会議事録案v2 (城戸)
  - 03-02-01 鋼構造運営委員会議事録20230802 (金尾)
  - 03-02-02 鋼構造運営委員会 細分類・再々分類 (金尾)
  - 03-03-01 2024年度活動計画案 (金尾)
  - 03-03-02 刊行予定 (金尾)
  - 03-04-01 方針審議メモ (金尾)
  - 03-04-02 aisi s100-16 s100-16-c\_e\_s (小橋)
  - 03-05 国際化WG議事録(案)\_2023年度第3回\_20230926 (松井)
  - 03-06-01 教科書案\_圧縮材20231013\_Matsui (松井)
  - 03-06-02 圧縮材20231013\_別添資料\_Matsui (松井)
  - 03-06-03 指針案\_圧縮材20231013\_Matsui (松井)

## 5. 議事内容

### 資料03-01

- ・資料03-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された。

### 資料03-02-01～03-02-02

鋼構造運営委員会 (8/2) について, 金尾主査より報告がなされた。

- ・重点審議は接合小委員会では, デジタルコンテンツ (動画など) を製作する予定とのこと。
- ・次年度PDは鋼構造限界状態設計指針改定小委員会である。

大会の細分類・細々分類について, 資料03-02-02の内容について確認した。

### 資料03-03-01～03-03-02

活動計画について, 特に刊行計画について金尾主査より説明がなされた。また, 審議を行い次のことが決定した。

- ・まずは刊行予定書 (資料03-03-02) を提出することとなった。
- ・契約に関して, 事務局側のほうでは話がこれまで進んでいなかった。そもそも, 誰と誰が交わすのかが分かっていない。契約内容としては, 著作権がAIJ側にあること, 出版までSSRC側の協力が得られること, が含まれている必要がある。
- ・序論を誰が書くか, SSRCのロゴを入れるかどうかを上層部で検討していただく。
- ・刊行計画書および刊行企画書は上記の確認が終わってから提出する。

### 資料03-05

松井委員より国際WGの活動内容について報告がなされた。中澤委員の作業状況が把握できていないため, 松井委員より作業状況や今後の作業方針についてのご意向を確認することとなった。

2013年版10章については, 国際連携WGの他の委員が代わりに担当できるかもしれないので, 中

澤委員の回答によって今後の作業方針を決定することとなった。

#### 資料03-04-01～03-04-02, 03-06-01～03-06-03

座屈設計指針の改定方針について、会議までに集約された各委員の意見の紹介および説明がなされた。松井委員より、圧縮材に関する教科書、指針の案が紹介された。また、金尾主査より方針案が提示され、審議を行った。次のような意見が出された。

- ・指針の体系が見直されつつある。座屈設計指針の存在意義が問われており、座屈ならこれを見ればよいというくらいの充実した内容とすべきである。
- ・指針と教科書（指針補助教材・解説書）の両方をつくる。
- ・使われる指針とすることも大事である。
- ・建築物の構造関係技術基準解説書（黄色本）に載っているものでないと設計では使われない。
- ・指針については、建物のどこに使われているか書かれていると良い。
- ・Direct analysis methodについて、設計例などを追加するとよりわかりやすくなる。
- ・指針改定を主として考え、エフォートについても指針のほうが多めのほうが良い。教科書については、指針のスリム化をはかりつつ、指針の解説書としての位置づけとし、指針のわからないところは、教科書を見ればよいというようにすればよいのではないか？
- ・教科書については、過去の書籍と同じものがあると著作権が問題になる可能性がある。
- ・座屈現象を説明するのが難しいのでデジタルコンテンツが有効なのではないか。今後指針のデジタル化が行われるのなら、デジタルコンテンツ込みで考える。また、これら動画も含めてサブスクリプション化すればよいのではないか。
- ・教科書は自学自習できるものがある。微分方程式など文字式で計算できるものものがあるので、そのような計算ができるプログラムなどを付属させるのもよい。
- ・委員会として何を主張したいのかを、明確にする必要がある。また、方針の決定がやや緩慢であるため、スピード感をもって方針を決めて作業に取り掛かる。

#### 次回委員会に向けて

- ・各自、現行指針全体を見て、指針の構成、章立てを提案することとなった。

#### 6. 次回小委員会予定

日時：2023年11月末～12月第2週で日程調整する。

場所：Web会議（対面の可能性もあり）